

令和7年度 第3回 学校運営協議会 議事録

岡山県立岡山西支援学校

令和8年2月20日

10:00～11:30

出席者

(1) 委員

小倉委員、河田委員、祇園委員、熊代委員、小林委員、澤井委員、武縄委員、萩原委員、宮野委員、粟津委員

(2) 本校職員

小田副校長、兼信事務長、頃末主幹教諭、原田主幹教諭、三宅指導教諭、板野指導教諭、石井教諭、金井教諭、福島教諭、三宅教諭、森分教諭

1. 開会

粟津委員より、高等部の実習や各学部の行事が無事に終了したこと、卒業式に向けた準備が進んでいる現状が報告された。また、本年度の学習活動への地域協力に対する謝辞が述べられた。

2. 報告及び次年度に向けて

(1) 令和7年度 報告

① いじめ対策（生徒指導主事）

2学期末までの指導案件（小中高計6件）の報告。主な内容はトラブルや不適切な行動、LINEによるトラブル等。

対策：環境調整、個別指導、情報共有シートによる記録管理、校内委員会での協議を継続。被害生徒への寄り添いを重視した支援を行っている。

② 防災教育（安全担当主査）

・火災及び地震を想定した訓練（6月・9月・12月）の実施。

・新規の取組：起震車による体験教室、緊急地震速報に対応した初期対応訓練(ショート訓練)。隣接校の速報音に反応して自発的に体を守るポーズを取る児童が見られるなど、定着の兆しが見られる。

③ 高等部の進路状況（進路指導主事）

・高等部15名、訪問教育2名の進路状況。一般就労2名、A型事業所3名（3月より勤務開始予定者あり）、B型・自立訓練・生活介護等。

(2) 令和8年度に向けて

① 学校経営計画（案）（校長）

・重点目標：創立50周年を機に、特別支援学校の原点である「自立活動の指導の充実」を掲げる。

・方針：「チーム西支援」として継続的な学びを保障しつつ、学校評価から見えた、引継ぎ等の課題について改善に繋げる。

② 学校評価アンケート改訂（主幹教諭）

- ・高評価：組織的な対応、個人情報管理、教材の工夫などが保護者・教職員共に90%以上。
- ・課題及び改善点：
 - ・引継ぎ・進路情報の提供：学部間の情報共有を強化し、早期（小学部等）からの意識啓発を行う。
 - ・地域資源の活用：活動目的の発信（見える化）と学生ボランティアの継続。

③ 学校評価アンケート改定（案）（主幹教諭）

「ICT活用」と「防災教育」の項目を新規設定。評価基準の明確化を図る。項目によって、自由記述欄も用意。

④ 自立活動の充実（指導教諭）

- ・「自分で自分を支援する（支援を使いこなす）」力を養う。自己理解（感情グラフの作成等）を通じた合理的配慮の要求スキルの習得を目指す。

⑤ 校内・校外支援の充実（指導教諭）

- ・近隣5校園との連携強化、センター的機能についての小学校への周知活動。専門家（SC、SSW、OT、ST、発達障害の専門家）の積極活用による「強度行動障害」の予防的支援の実施。

（3）協議（部会ごと）

各部会（福祉就労・教育支援・安全防災）での主な意見は以下の通り。

① 学校自己評価アンケートの改定について

- ・自由記述欄があり、多くの意見が出やすくよい。
- ・「どちらでもない」という曖昧な回答を避けるため、5段階評価から4段階評価へ変更してはどうか。
- ・例えば、質問文の表現を保護者の感覚に合わせる工夫（例：指導を行う→受けている）をし、教職員と保護者で異なるアンケートとしてはどうか。
- ・例えば、小学部と高等部では「進路」の捉え方が異なるため、説明が必要ではないか。

② 自立活動・校外校内支援について

- ・「自立」の定義（支援を受けながら良さを発揮する）を保護者と共通認識を持つことが重要。
- ・地域行事への参加や、地域の防災訓練への児童生徒の参加を通じ、顔の見える関係性を築くことが、災害時の安全確保にも繋がる。

（4）まとめ

- ・次年度学校経営計画（案）の承認：委員の拍手により承認された。

3. 閉会

河田委員より、「アテンション・スパン（注意の持続時間）」が短くなっている現代において、シンプルで心に響く言葉がけを大切に、子供たちと向き合ってほしいとの激励があり閉会した。